

平成30年度 公益財団法人大分県体育協会第3回理事会

日時：平成31年1月11日（金）14時00分～

会場：大分県庁舎新館14階「大会議室」

理事

出席者 工藤 利明 麻生 益直 相馬 尊重 井上 倫明 安部 省祐
(24名) 安部 亮 大場 俊二 詫摩 英明 土谷 忠昭 牧 和志
松本 悠輝 蓑田 智通 三好 正昭 阿部 昭一 今富 寛二
衛藤 賢 榎 英樹 桑野桂一郎 佐藤 彰倫 白水 厚二
花木 敏寿 樋口 紅史 廣瀬 宏一 渡邊 美穂

欠席者 広瀬 勝貞 上野 浩光 工藤 啓記 穴井 俊一 小幡 龍也
(6名) 山崎 隆典

監事

出席者 鍵矢 栄典 工藤 哲郎 矢部 正秋
(3名)

参与

欠席者 津田 元英

資格確認 伊藤総務部長が出席者理事24名で、定数の過半数であることから、本会定款第36条により、本会が成立することを報告した。

1 開会のことば

伊藤総務部長が開会のことばを述べた。

2 挨拶

公益財団法人大分県体育協会副会長 工藤 利明大分県教育長があいさつを行った。

皆さん、明けましておめでとうございます。年末年始良い天候に恵まれて、皆さんも健やかに新年を迎えられたのではないかと思います。本来は、広瀬会長がご挨拶申し上げるところではございますが、他の公務のため出席がかないませんので、代わって挨拶を申し上げます。本日は第3回の理事会ということで、年初の大変お忙しい中にお集まりいただきまして、ありがとうございます。今年は大分スポーツの年ということで、ラグビーワールドカップ5試合が今年10月に大分の地で行われます。色々な形で盛り上がりを見せておりますけれども、振り返りますと昨年は、第73回福井しあわせ国体において大変素晴らしい成績を上げることができました。前年の25位から21位となり、前々年の38位からみますと雲泥の差となろうかと思えます。目標は10位台でしたが、あと一步というところまで近づいてまいりました。2年越しで強化をしてきた結果が現れたかなと嬉しく思っていますし、ご尽力いただきました方々に感謝申し上げる次第でございます。また、年末には、京都の都大路で高校駅伝があり、男女ともに大分東明高校が出場いたしました。男子は残念でしたが、事前に選手が怪我

をされて予備の選手が出たということで、監督との話では、何とか入賞を目指したいということでした。3区では、ベヌエル・モゲニ選手が大活躍で25人抜きと素晴らしい快走をみせてくれました。また、女子は、これは大いに期待をして良いという話でしたけれども、予想に違わず4位ということで、大分県としては過去最高順位となりました。大分東明は都大路では常連校と言われるようになったといいます。やはり継続は力なりといろんなところで申し上げていますが、まさに努力を続ければ成果が出るということではなかろうかと思えます。チーム大分としても今年も茨城で大暴れできるように頑張っていきたいと思っていますところであります。また、今年はスポーツ少年団事業、総合型地域スポーツクラブの活動などいろいろとスポーツ振興にも取り組んでいきたいと考えておりますので、皆さん方のご支援をよろしくお願いいたします。今日は、補正予算さらには表彰関係の議題がありますけれども、皆さんの積極的なご意見を出していただきたいと思います。今日はよろしく申し上げます。

議長選出

理事会規定第6条では、「理事会の議長は会長がこれにあたる」となっていますが、会長は他の公務と重なり出席ができませんので、定款第35条により工藤副会長に議長をお願いします。

また、議事録署名につきましては、定款第37条に出席した会長・副会長及び監事は議事録に記名押印するとなっておりますので、その旨よろしくお願いいたします。

以降は議長による進行。

3 報告事項

- (1) 平成30年度事業報告について
- (2) 第73回国民体育大会成績について
- (3) 第38回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績について
- (4) 第74回国民体育大会に向けた競技力向上対策について
- (5) 全国表彰受賞者について
- (6) 各種大会成績について

以下、佐保事務局長の説明

それでは3の報告事項(1)平成30年度事業報告ですが、昨年8月の第2回理事会での報告以降の事業について主なものを抜粋して説明いたします。

レジユメの1ページをお開きください。まず、第73回国民体育大会関係について説明いたします。No.1、8月31日、会期前実施競技知事表敬訪問から始まりまして、No.7、9月20日の大分県代表団結団壮行式、No.8の福井国体開会式前日に福井市で行われたドクターズミーティング、2ページNo.9の総監督会議、そして、No.10、9月29日から10月9日にかけて「福井しあわせ元気国体」本大会が開催され、チーム大分453名が大会に参加いたしました。大会成績につきましては、後ほど説明いたします。また、国体に向けては、1ページNo.2、9月1日に日本スポーツ協会の委託事業であります「ドーピング防止研修会」を開催いたしました。これは、当初7月7日に予定しておりましたが、当日豪雨のため延期して開催したものです。本会の松本悠輝常務理事にも講師をお願いして、61名の参加の下、ドーピング・コントロールや熱中症予防対策について御講義をいただきました。松本常務理事ありがとうございました。福井国体終了後ですが、2ページNo.16、10月29日に工藤秀明スポーツ奨励賞選考委員会を開催し受賞者を決定、3ページNo.28、11月20日に大分県代表団反省会、工藤秀明スポーツ奨励賞授与式、大分県代表団懇談会を開催し、「チーム大分」は第74回国民体育大会での更な

る高みへの挑戦を期して、一層の結束を深めました。また、No.23、競技別強化担当者会議、いわゆるヒアリングを県競技力向上対策本部と合同で実施し、今後の競技力向上対策について協議いたしました。

次に、スポーツ少年団関係です。1ページのNo.3、本年3月末に本県で開催いたします全国スポーツ少年団バレーボール交流大会の開催に向けて、9月5日に実行委員会設立総会及び第1回総会を開催いたしました。

次に、大分県スポーツ少年団外傷・傷害防止担当者養成講習会ですが、2ページのNo.13、3ページのNo.22、4ページのNo.37の3回の開催をもちまして、本年度の研修会を終えました。様々な角度から子どもの外傷・傷害防止担当者としての知識を御講義いただき、非常に有意義な講習会となりました。次年度は、さらに充実した講習会を開催していきたいと考えております。また、2ページのNo.18、11月3日・4日に九州ブロックスポーツ少年団連絡協議会及び指導者研究協議会を本県で開催いたしました。2日目の指導者研究協議会は、No.19の指導者母集団連帯研修会と併せて開催し、関係者70名の参加により指導者の資質向上を図りました。4ページ、No.31、本年2月11日に開催いたします駅伝交流大会の開催に向けて、第1回実行委員会を開催いたしました。

国体、スポーツ少年団以外の事業につきましては、3ページのNo.21、11月10日にガバナンス研修会を開催しました。この研修会は対象を毎年変えて開催しており、今回は競技団体の理事長、事務局長、会計担当者を対象に、「スポーツ団体における経理ガバナンス」の視点から研修を行いました。

次に、No.29、11月23日に総合型地域スポーツクラブ交流会を開催しました。本交流会は例年、県立総合体育館で開催しておりますが、今回は、昨年度の豪雨災害からの復興支援を兼ねて津久見市で開催しました。また、No.30、11月27日に第2回スポーツ医科学委員会を開催しました。今回はメディカルサポート部会員、研修部会員同席で開催し、特に国民体育大会大分県代表選手問診票について協議いたしました。

その他の事業につきましては、記載の通りでございます。後刻御確認いただきたいと思っております。事業報告は以上でございます。

次に、(2)の第73回国民体育大会成績について報告いたします。レジュメ5ページを御覧ください。1の総合成績は御覧のとおり、本県は974.5点を獲得し、天皇杯順位は第21位でした。19位の静岡県が1033.5点でございましたので、目標の10位台との差は59点でございました。また、九州における本県の状況ですが、3の九州各県総合成績比較を見ていただきますと、本県は九州ブロック大会では九州第3位の成績でしたが、国体でも九州第3位の成績でした。

6ページを御覧ください。優勝した団体・個人の皆さん方です。最初に団体を紹介いたします。弓道競技成年男子遠的において、大分県選抜チームが優勝を果たしました。なお、この記録は、予選上位8チームによる決勝トーナメントが荒天により実施されなかったことによるものです。次に個人を紹介します。自転車競技成年男子1kmタイム・トライアルにおいて、一丸尚伍選手が2年ぶり2回目の優勝を果たしました。ウエイトリフティング競技成年男子+105kg級クリーン&ジャークにおいて、野中雅浩選手が大会新記録で3年連続優勝を果たしました。空手道競技成年女子形において、大野ひかる選手が優勝いたしました。陸上競技少年男子A5000mにおいて、ベヌエル・モゲニ選手が2年連続で優勝、同じく少年女子A3000mにおいて、マータ・モカヤ選手が優勝いたしました。7ページから8ページにかけては、入賞一覧です。すべての入賞者の紹介は省略させていただきますが、入賞した競技数は昨年を2つ、種目数は昨年を8つ上回っている状況です。9ページから26ページにかけては大分県代表団すべての成績一覧です。詳細な説明は省略させていただきますので、後刻御確認ください。以上で第73回国民体育大会の成績についての報告を終わります。

次に、(3)の第38回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績について説明いたします。レジュメは27ページとなります。本年1月30日から開催される第74回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会の出場権をかけて、九州ブロック大会が昨年の12月1日に福岡県立総合プールスケートリンクで開催されました。本県は成年男子種別に出場し、初戦、熊本県と対戦いたしました。なお、成年男子種別は代表権が4ですので、初戦を勝てば代表権獲得となります。結果は御覧のとおり、0対7で敗退し代表権の獲得には至りませんで

した。以上で第38回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績についての説明を終わります。

次に、(4)の第74回国民体育大会に向けた競技力向上対策について説明いたします。レジュメは28ページとなります。まず、第73回国民体育大会に向けては、2年前の第71回国民体育大会での惨敗を受け、2年越しでの10位台復活に向け、チーム大分丸となって強化に取り組んでまいりました。その結果、第73回国民体育大会では「第21位」まで巻き返すことができました。獲得した総合得点974.5点はここ数年では最高点となりましたが、順位としては第21位と、目標でありました10位台を達成できなかったという事実は真摯に受け止めなければなりません。事務局としましては、本県の競技力を維持・向上させていくためにも、第74回国民体育大会でも高い目標に向かって挑戦することが重要と考えており、天皇杯順位10位台を達成するためには、天皇杯得点1000点の壁を突破しなければその達成はあり得ません。順位というものは相対的なものでありますので、絶対的なものとして、第74回国民体育大会に向けては、「天皇杯得点1000点」、「競技得点600点」の獲得を目指したいと考えております。では、どのようにして天皇杯得点1000点、競技得点600点を獲得するかです。28ページ一番左を御覧ください。まず、第73回国民体育大会を振り返りますと、県体育協会では、目標達成に向けて20/10/5というキーワードを掲げていました。これは得点獲得競技数最低20競技以上、その内10競技で30点を、5競技で50点を獲得するというものです。このキーワード設定に当たり、過去10年間で天皇杯順位10位台を達成している県を分析したところ、約8割の県が100点以上獲得している競技を有していることがわかりました。恐れ入りますが、差し込みをしております別紙を御覧ください。こちらは、第73回国民体育大会の天皇杯順位19位の静岡県から、24位の岩手県までの得点獲得状況です。各県とも獲得得点の高い競技からの順となっています。100、70、50、30、1点以上のところについては、塗りつぶしの濃さを変えています。これを見ますと、三重県と富山県は100点以上、静岡県と石川県は80点以上獲得した競技を持ち、さらに50点以上獲得した競技をいくつか持っています。19位の静岡県と20位の三重県とは本県と得点獲得競技数が同じでしたので、本県とはここで差がついた形となっています。本県が他県と同じような得点獲得の状況ではないということがおわかりになると思います。

レジュメ28ページにお戻りください。このように、本県が一競技で100点以上を獲得することが厳しいことから、100点競技がなくても目標達成できる、大分独自の得点獲得モデル20/10/5を導き出しました。結果は、得点獲得競技が21、その内8競技が30点以上、1競技が50点以上獲得というものでした。50点以上の競技はひとつでしたが、得点獲得競技数は21競技と目標を達成し、30点以上獲得競技数は8で下回ったものの、水泳が29点、なぎなたが27点でしたので、目標にほぼ近い結果といえます。これら21競技の得点が積み重なって競技得点574.5点となり、結果として天皇杯順位第21位となりました。本県の現状を鑑みますと、来年の第74回国民体育大会においても、100点獲得競技が生まれることは考えにくいことから、第74回国民体育大会に向けては、この「大分方式」の得点獲得モデルを継続・推進し、第73回国民体育大会で培った力をベースとして更なる高みに挑戦していきたいと考えています。第74回国民体育大会のキーワードは25/10/5です。本県が更なる高みに挑戦するためには、毎年、得点を獲得している競技種別が上積みをしていくことも大切ですが、0点競技を減らし、競技得点獲得数を如何に増やすかが重要です。『すべての競技種別が支え合いながら頑張る』これこそがチーム大分の目指すべき姿だと思います。この考え方を競技団体と共有し、各競技の現状分析、課題整理、今後の対策などを協議するため、昨年11月に県競技力向上対策本部と合同で、第2回ヒアリングを実施し、既に強化に向けた取り組みを開始しているところです。目標の達成が決して楽観視できる状況ではございませんが、今後の強化につきましては、特効薬などございませんので、目標達成に向けた強い思い、正確な分析、効果的な強化策を競技毎の状況に応じて徹底させていくことにつきると考えております。この「大分方式」によって必ず目標を達成するという決意を競技団体と常に共有して強化に取り組むたいと考えております。以上で第74回国民体育大会に向けた競技力向上対策について報告を終わります。

次に、(5)の全国表彰受賞者について説明いたします。レジュメは29ページとなります。まず、永年にわたりまして、体育・スポーツの振興・発展に功績のありました方に対する文部科学大臣表彰でございますが、本年

度は2名の方が受賞されました。その内、本会からの推薦は1番の陸上競技の普及振興に尽力されました大分市の河野信治さんであります。

次に、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰でございます。この表彰は資格取得後15年以上にわたり、スポーツの普及振興及び指導者育成等に尽力し、顕著な功績をあげた方々に対する表彰でございます。表彰されましたのは、一昨年度までは本会スポーツ医科学委員会委員として、昨年度からは医科学委員会研修部会副部長として、本県スポーツの普及発展に尽力されている、井上敏ドクターでございます。本年度、全国表彰を受賞されました方々に対しましてお喜び申し上げますとともに、今後ますますの御活躍をお祈り申し上げます。

次に、(6)の各種大会成績について説明いたします。レジュメは30ページから37ページにかけてとなります。今回の報告は、第2回理事会以降に開催されました各種大会成績を、中学生は全国大会ベスト8以上、高校生・社会人は九州・西日本大会ベスト4、全国大会ベスト8以上、国際大会はすべての成績をまとめています。本日はこのあと、議案が多くありますので、全国大会優勝及び国際大会3位以上を報告させていただきます。

31ページ、陸上競技、JOCジュニアオリンピックカップ大会第12回アンダー18日本陸上競技選手権大会において、大分雄城台高校の奈須貴子選手が女子円盤投げで優勝いたしました。第102回日本陸上競技選手権リレー競技大会において、福岡大学の児玉芽依選手が女子400mリレーで優勝いたしました。水泳競技、第94回日本学生選手権水泳競技大会において、早稲田大学の渡辺一平選手が男子100m及び200m平泳ぎで優勝いたしました。

32ページ、カナダで行われました2018インターナショナルカモインビテーションにおいて、大分ダイビングクラブの山本馨選手が高飛び込みで2位に入賞いたしました。ボクシング競技、平成30年度全日本社会人ボクシング選手権大会において、池永セメント工業所の荒木寛人選手がフライ級で優勝いたしました。平成30年度第17回全日本女子ボクシング選手権大会において、大分県ボクシング連盟の菊地真琴選手がシニアウェルター級で優勝いたしました。

33ページ、レスリング競技第13回全日本女子オープンレスリング選手権大会において、日本文理大学の斎藤未来選手がフリースタイル76kg級で優勝いたしました。

34ページ、ウエイトリフティング競技、内閣総理大臣杯第55回全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会において、チームめじろんが団体（地域スポーツクラブ部門）で優勝いたしました。第64回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会において、法政大学の野中雅浩選手が、105kg超級で優勝いたしました。フェンシング競技、アルゼンチンで行われた第3回夏季ユースオリンピック競技大会において、星槎国際高等学校の上野優佳選手が女子フルーレ個人で優勝いたしました。

35ページ、柔道競技、平成30年度講道館杯全日本体重別選手権大会および中国で行われた2018ワールドマスターズにおいて、アルソックの梅木真美選手が、女子78kg級で優勝いたしました。

36ページ、ライフル射撃競技、JOCジュニアオリンピックカップ兼第29回ISSFジュニアライフル射撃競技選手権大会において、東九州龍谷高校の蕨野有紀選手が、女子ビームライフル立射60発で優勝いたしました。全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会兼第74回国体ライフル射撃競技リハーサル大会において、由布高校の佐藤高史郎選手が男子ビームライフル立射60発で、同じく由布高校の中村実佑選手が女子ビームライフル立射60発で優勝いたしました。剣道競技、韓国で行われた第17回世界剣道選手権大会において、大分県警察の竹下洋平選手が男子団体で優勝いたしました。申し訳ありませんが追加をお願いいたします。剣道競技ですが、同じく世界選手権大会において、熊本県警察の西村英久選手が男子団体で優勝いたしました。その他の成績につきましては資料提供をもって報告とさせていただきますので、恐れ入りますが、後刻、御確認ください。以上で報告事項のすべての説明を終わります。

《質疑応答なし》

4 議事

以下の議事について、佐保事務局長より説明された。

議案1 平成30年度補正予算について

議案2 会長専決事項について

- (1) 第38回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技大分県代表团について
- (2) 第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会大分県代表团について

議案3 第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会大分県代表团について

議案4 大分県体育協会表彰について

【議案1 平成30年度補正予算について】

それでは平成30年度補正予算について説明いたします。レジュメは38ページからとなります。今回の補正予算につきましては、本年度、すでに予算執行を終えている事業についてその実態に合わせて行うものに加え、年度途中で予算の変更があったものについて行うものがございます。本会の会計は、公益法人会計として、大分県スポーツ振興事業、大分県スポーツ少年団事業、大分県スポーツ普及・表彰事業の3事業の会計と、事務局運営に係る法人会計の4会計からなっています。それぞれの会計ごとの資料は、38ページから45ページにかけて詳細に記載していますが、わかりやすくするために、45ページの次にありますA3の概要版を使って説明させていただきます。恐れ入りますが、レジュメの方向を変えていただきまして、概要版を御覧ください。

補正前予算額・補正額・補正後予算額の角カッコは大科目、丸カッコは中科目、カッコがないのが小科目の金額となっています。また、表の右端の小さな数字は行数を示しています。まず、一般正味財産増減の部の経常収益、いわゆる収入の部です。14行目の国体参加補助費ですが、補正前予算額1億5千211万4千円に対しまして、74万5千392円減額補正、補正後予算額1億5千136万8千608円でございます。これは、九州ブロック大会夏季大会及び秋季大会分の参加者数を実態に応じて減額補正するものでございます。

次に18行目のスポーツ少年団全国交流大会費及び37行目全国スポーツ少年大会参加者負担金ですが、補正予算額を全額減額補正し、補正後予算額が0円となっています。これは本県で開催した九州ブロックスポーツ少年大会の日程と重なったため、参加者が無かったことによるものでございます。次に27行目のスポーツリーダー兼認定員養成講習会ですが、補正前予算額55万円に対しまして、11万円減額補正、補正後予算額44万円でございます。これは開催予定市町のうち一市が自主開催事業となったためでございます。

次に30行目の受取負担金ですが、補正前予算額320万8千円に対しまして、36万8千5百円減額補正、補正後予算額283万9千5百円でございます。これは、各種大会・研修会の参加者の実態に応じて減額補正するものでございます。次に40行目の受取寄付金ですが、補正前予算額86万円に対しまして、31万3千440円減額補正、補正後予算額54万6千560円でございます。これは今年度工藤秀明スポーツ奨励賞受賞者が少なかったことによるものでございます。次に48行目の雑収益ですが、補正前予算額152万6千円に対しまして、111万円増額補正、補正後予算額263万6千円でございます。これは、3月に本県で開催いたします全国スポーツ少年団バレーボール交流大会に係る協賛金等によるものでございます。その他の補正につきまして

は、すでに予算執行を終えている事業についてその実態に合わせて行うもので、参加者数の増減等によるものがございますので、詳細の説明は省略させていただきます。

49行目、経常収益合計につきましては、補正前予算額3億飛んで962万2千円に対しまして、39万152円減額補正の補正後予算額は3億飛んで923万1千848円となります。次に経常費用、いわゆる支出の部でございます。大分県スポーツ振興事業の59行目の国民体育大会参加費、67行目の大会派遣費、74行目の表彰費につきましては、経常収益と同じ理由により、減額補正となっています。75行目の上記3事業の事業管理費につきましては、補正前予算額2千150万6千円に対しまして、50万5千376円増額補正、補正後予算額は2千201万1千376円でございます。これも、社会保険料及び共済費の増額が主なものです。

77行目の法人会計の管理費ですが、補正前予算額630万2千円に対しまして20万7千56円増額補正、補正後予算額は650万9千56円でございます。これも、社会保険料及び共済費の増額が主なものです。その他の補正につきましては、すでに予算執行を終えている事業についてその実態に合わせて行うもので、参加者数の増減等によるものがございますので、詳細の説明は省略させていただきます。経常費用合計につきましては78行目ですが、補正前予算額3億飛んで962万2千円に対しまして、59万6千384円減額補正の補正後予算額は3億飛んで902万5千616円となります。

続いて84行目、当期経常増減額ですが、補正前予算額0円に対しまして、20万6千232円増額補正の補正後予算額となり、この額が黒字見込額となります。最終行、正味財産期末残高につきましては、補正前予算額3千438万4千315円に対しまして、51万9千672円増の補正後予算額3千490万3千987円となります。以上で平成30年度補正予算の説明を終わります。御審議お願いいたします。

《質疑応答なし。全会一致で承認された》

【議案2 会長専決事項について】

- (1) 第38回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技大分県代表団について
- (2) 第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会大分県代表団について

それでは、会長専決事項について説明いたします。先ほど報告いたしました第38回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技会、及び第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会の大分県代表団につきましては、参加申し込みまでに理事会を開催することができませんでしたので、会長専決により参加申し込みをさせていただき、本日の理事会で承認をいただきたいというものでございます。

レジュメ47ページでございます。まず、(1)の第38回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技会大分県代表団につきましては説明いたします。役員といたしまして、団長に井原誠県アイスホッケー連盟会長、総監督に井上倫明本会専務理事、総務員は3名、選手団については、資料記載のとおり、高山英一郎監督他選手20名でございます。

次に、(2)の第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会大分県代表団につきましては説明いたします。48ページをお開きください。スケート競技会ショートトラックは、1月30日から北海道釧路市で開催されます。本部役員といたしまして、団長に玉田輝義県スキー連盟会長、副団長に三宅文子県スケート連盟理事長、総監督に井上倫明本会専務理事、ほか総務員は2名でございます。スケート競技の選手団は、佐藤陽太郎監督兼選手でございます。以上で会長専決事項についての説明を終わります。御審議お願いいたします。

《質疑応答なし。全会一致で承認された》

【議案3 第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会大分県代表团について】

第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会大分県代表团につきまして説明いたします。レジュメは49ページでございます。スキー競技会は2月14日から北海道札幌市で開催されます。本部役員といたしまして、団長に玉田輝義県スキー連盟会長、副団長に麻生純二県スキー連盟副会長、総監督に井上倫明本会専務理事ほか総務員は2名でございます。旗手は成年男子ジャイアントスラロームに出場する小関祐治選手です。監督、選手につきましては記載のとおりで、監督3名、選手13名でございます。以上でございます。御審議お願いいたします。

《質疑応答なし。全会一致で承認された》

【議案4 大分県体育協会表彰について】

それでは、平成30年度大分県体育協会表彰について、説明いたします。レジュメは50ページからでございます。この表彰は、学校・地域または職域におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、本県スポーツの振興に著しい成果をあげた個人及び団体を表彰するもので、2月5日火曜日15:00からホテル日航大分オアシスタワーで表彰式を開催するものでございます。表彰の種類及び推薦基準につきましては、恐れ入りますが、71ページをお開きいただきまして、中段上の第4条にございますが、表彰の種類は「スポーツ功労者及び団体」、「スポーツ優良生徒」、「生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体」の3種類でございます。なお、「スポーツ功労者及び団体」につきましては、個人、団体、指導者の3部門になっております。推薦基準につきましては記載のとおりでございます。また、審査及び決定につきましては、第2条にございますように、本会の加盟団体及び本会が推薦する個人・団体を本理事会において審査し決定するものです。

恐れ入りますが、50ページにお戻りください。本年度の候補者及び候補団体の総数ですが、スポーツ功労者及び団体では、個人の部は前年から10名減って47名、団体の部は前年から9団体減って6団体、指導者の部は前年から2名増えて4名でございます。生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体では、生涯スポーツ功労者は前年と変わらず5名、生涯スポーツ優良団体は前年より1団体増えて4団体でございます。スポーツ優良生徒では、中学生の部では前年より62名減って168名、高校生の部では前年より7名減って262名でございます。次に各部門別の候補者でございます。レジュメ51ページからでございます。

最初に、スポーツ功労者個人の部47名でございます。一人一人の紹介は省略させていただきますが、競技別人数の内訳は、水泳7名、ボート1名、セーリング5名、陸上競技4名、ボクシング2名、レスリング1名、ウエイトリフティング1名、ハンドボール5名、自転車1名、柔道1名、フェンシング6名、ライフル射撃5名、剣道2名、アーチェリー1名、空手道1名、カヌー3名、ゴルフ1名となっております。

53ページ下段を御覧ください。団体の部6団体でございます。個人の部と同じく詳細な説明は省略させていただきますが、競技の内訳は、陸上競技1団体、ハンドボール1団体、弓道1団体、カヌー3団体となっております。

54ページ、指導者の部につきましては、全国大会や国際大会で活躍したトップレベルの選手を育成している水泳競技の坂本真啓さん、ハンドボール競技の島村浩信さん、梶原健さん、なぎなた競技の築城理恵さんの4名でございます。

次に、生涯スポーツ功労者でございます。永年にわたり学童の泳力向上と指導者育成に尽力され、県民体育大会の監督や市民水泳大会の運営などに携わるなど、普及・振興に貢献されている大分市の奥永英三さん、永年にわたりソフトボールを通して子どもたちの健全育成に尽力するとともに、ソフトボールの普及・発展に寄与されている大分市の佐藤信之さん、大分市スポーツ推進委員として地域スポーツの発展に貢献し、東植田地区体育協会役員、東植田地域総合型地域スポーツクラブ〔クローバークラブ〕の運営員として地域スポーツ全般の運営に

尽力されている、大分市の森永陽子さん、竹田市ゴルフ協会創立に携わり、会長としての職務を果たしながら、ゴルフ練習場を開設・運営し、ゴルフ教室の開催や愛好者の集いの場の提供や、総合型地域スポーツクラブ「竹田スポーツ・レクリエーションクラブ」での幅広い世代を対象に指導を行うなど地域スポーツの普及・発展に尽力されている、竹田市の河室健士さん、55ページ、永年にわたり相撲競技において、国民体育大会や県民体育大会等で輝かしい実績を残し、その振興と発展に寄与するとともに、日田市体育協会の要職を歴任する中、日田市のスポーツ振興に貢献、役職を退いた現在もその発展に尽力している、日田市の河内賢吾さんの5名でございます。

続いて、生涯スポーツ優良団体でございます。平成6年にクラブ設立以来、年代を超えたサッカー愛好者が集い、シニアサッカー競技活動を行っている。親睦交流が盛んで、様々な地域の活性化に貢献している。県内外の大会の積極的に参加し、優秀な成績をおさめるなど活発な活動をしている、中津市の「中津OBサッカークラブ」、平成16年に設立以来、子供から高齢者まで幅広い年齢層にスポーツや健康づくり、生き甲斐づくりの場を提供している。ジュニアスポーツの指導体制と充実した施設環境を活用し、野津原地区全体の活性化と地域住民の健康増進に寄与している、大分市の「NPO法人七瀬の里Nクラブ」、平成19年にクラブ設立以来、川添地区全戸を会員とし、スポーツ教室やイベントを通じて地域住民の健康増進・コミュニティーの核となる場を提供している。お買い物サークルやにこにこ活動隊など地域色のある活動も展開し、川添地区に欠かせない団体となっている、大分市の「NPO法人川添なのはなクラブ」、平成19年に設立以来、スポーツ・文化教室等、他種目・他世代の教室運営を行っている。スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなど多様な活動を展開し、地域コミュニティーの核となっている、大分市の「ひしのみクラブ」の4団体でございます。

次に、スポーツ優良生徒でございます。56ページからでございます。まず中学生の部ですが、56ページに県中体連から推薦のありました候補者の数を学校別の一覧にしています。39校から男子80名、女子88名、計168名でございます。57ページから61ページにかけて競技別の候補者を掲載しています。競技別人数の内訳は、水泳15名、陸上競技18名、サッカー4名、テニス12名、バレーボール14名、体操4名、新体操1名、バスケットボール26名、ハンドボール13名、卓球6名、ソフトテニス7名、軟式野球8名、柔道15名、ソフトボール3名、フェンシング1名、バドミントン2名、剣道11名、空手道7名、アーチェリー1名でございます。詳細な説明は省略させていただきますが、候補者名、所属、成績等については記載の通りでございます。

62ページをお開きください。次に高校生の部でございます。県高体連、県高野連から推薦のありました候補者の数を学校別の一覧にしています。31校から男子173名、女子89名、合計262名でございます。63ページから70ページにかけて競技別の候補者を掲載しています。競技別人数の内訳は、水泳6名、飛込1名、ボート1名、セーリング18名、陸上競技14名、サッカー6名、テニス7名、ホッケー12名、バレーボール10名、体操2名、新体操3名、バスケットボール17名、レスリング2名、ボクシング4名、山岳3名、ウェイトリフティング5名、ハンドボール21名、自転車4名、ソフトテニス4名、卓球8名、相撲2名、柔道4名、剣道10名、フェンシング10名、バドミントン3名、弓道1名、ライフル射撃11名、ラグビーフットボール24名、空手道5名、カヌー10名、なぎなた8名、少林寺拳法1名、高校野球（硬式）14名、同じく軟式11名でございます。詳細な説明は省略させていただきますが、候補者名、所属、成績等については記載の通りでございます。以上、いずれの表彰も推薦基準を満たしておりますことを報告させていただきます。なお、例年のことですが、本理事会終了後に追加申請がある可能性がございます。その場合には、推薦基準を満たしているか否かを事務局で審査し、会長専決とさせていただきたいと思っておりますので、このことも併せまして御審議をお願いいたします。以上でございます。

《質疑応答なし。全会一致で承認された》

5 その他

特になし

6 閉会のことば

伊藤総務部長が閉会のことばを述べた。

平成31年1月11日

副会長 工藤 利明

副会長 麻生 益直

副会長 相馬 尊重

監事 鍵矢 栄典

監事 工藤 哲郎

監事 矢部 正秋